

いわみざわ男女共同参画マガジン

# ア・ライク

ア・ライク(A'like)～共に生きる～  
(同様の・等しく)という意味を持ちます。

2005年 VOL.3



## コンテンツ

### ● 〈男女共同参画講演会〉

講談師 たから 宝 い 井 せん 琴 おう 桜

異議で語る女と男のすてきな関係～山下さんちの物語

### ● “あ・らいく”な人

いわみざわの‘ステキさん’をご紹介します。

### ● いわみざわ男女共同参画プラン推進市民会議

知ってますか?こんな活動をしています。

### ● **参加報告レポート** 日本女性会議2004まつやま

集い、語り、ともに拓こう!新たな関係

男女共同参画講演会

ひとひと  
**女と男のすてきな関係**  
～山下さんちの物語

いつ…平成16年10月2日(土)  
どこで…岩見沢平安閣

共催/いわみざわ男女共同参画プラン推進市民会議  
女性のネットワークいわみざわ



**男女共同参画社会ってどういう社会?**

男女共同参画社会と言われたときに、ぱっと土俵を思い出してください。世の中には、いろんな土俵があるわけです。政治の土俵、責任ある仕事の土俵、子育ての土俵、介護の土俵、家事労働の土俵。その土俵に上がって取り組みができるかできないかは、今までは性別で決まっていたんです。政治の土俵は男の土俵、責任ある評価につながる仕事の土俵も男の土俵、男の人にがんばってもらいましょうと。女は無理矢理そんな土俵に上がらなくても、土俵の下でお茶汲みしてリッパいいじゃない。女は女の土俵、子育ての土俵、介護の土俵、ご飯作ったり掃除洗濯家事労働の土俵でがんばりなさい。

そうじゃなくって、どんな土俵でもいいから、ひとつの土俵に女の人と男の人が一緒になって上がる、そして四つにがっぷり相手で責任を分け合って一緒に取り組む、喜びも一緒に分かち合えようよ。これが男女共同参画社会って考えれば、格別どうってこともない、理屈で言えば当たり前の世界だと思うんです。

**さてさて、山下さんのお宅では?**

さあ、東京の下町に住んでます山下さんのお宅。(バン!) 民間企業で管理職をしていた勝造さん。この年の春にめでたく定年退職を迎えたんです。そして、専業主婦として、公民館の活動、地域の活動に一生懸命な元気な妻、茂子さんがおります。(バン!)

「お父さん、お留守番頼みますねえ。私、出かけてきますから。」

「なんだ母さん、また出かけるのか。どこへ行くんだ、何時に帰る、俺の昼飯はどうなる。」



「いやですねえ、お父さんったら。定年になってから、私が出かけるたびに、どこへ行く、何時に帰る、昼飯はどうなるって。今日はねえ、素敵なごみ仲間の会のみなさんと一緒に議会の傍聴に行くんですよ。おばあちゃんも老人会の講演会とかで、いつ帰るかわかりませんからね。お父さん、おなかが空いたら冷凍庫から、何でも入ってますから、チンして好きな食べて下さいね。」

「冗談じゃないよ。女房がいるのに、何で男の俺が飯の支度しなきゃいけないんだ。えっ、定年になって、やっとのんびりできるのかと思ったら、何で自分の飯の支度…」

「お父さん、のんびりしたきゃすりゃあいいじゃないですか。言っときますけどね、お父さんがめでたく定年退職なさったということは、私もお父さんのお世話係からめでたく定年退職させていただく、そういうことなんですからね。それじゃ、どうぞごゆっくり。」

ぶつぶつ文句を言う夫を置いて、さっさと出かけたのが妻の茂子さん。(バン!) 議会の傍聴に行った帰り道(バン!)

「ねえ、今日ほど私、おかしかったことない。何だっとうちの町の議員さんって、どうしてあんなに男ばかりなの?」

「ああ、うち女の議員さん、2人しかいないからね。」

「おかしじゃない。」

「何が?」

「何がって、うちの町、大雑把に言って半分女の人に住んでて、半分男の人が住んでいるわけでしょ。その町の細々としたことを決めるのに、何だっとうちの男ばかり集まって決めなきゃいけないのよ。20人男の議員さんがいるんなら、20人女の議員さんがいて当たり前、それが自然で、どちらかの数が極端に少ないってことが、不自然じゃないの。」

「まあ、理屈を言っただけだよ。どこの町でもそんなもんじゃないの。いきなりねえ、女性の議員を増やすたってねえ。簡単にはいかないんじゃない?」

「そこがおかしいのよ。…そうだ!」

「どうしたの? 山下さん。」

「ねえねえ、来年の春は、統一地方選挙とかあるじゃないの。私たちの仲間から、誰か立候補させたらどうなの。」

「あら山下さん、あなたいいこと言うわねえ。そうよ、いつも署名集めて請願運動ばかりじゃ物足りないしね。来年の春やってみようよ。」

「あら、おもしろそうねえ。やりましょうよ。で、だれ立候補さ

講談師 **宝井琴桜さん**

男の講談とされてきた講談界に飛び込んで36年、初めての女性講談師ということで聴衆からの風当たりは厳しいものだったとか。そして現在プロとしてやっている講談師は男女約半々、こういう世界でも30年経つと変わるんですね。講談の講談で男女共同参画を楽しく身近な物語として、わかりやすく語っていただきました。時折ユーモアを交えながらも、ドキッとさせられるようなお話、ほんの一部ですが、ご紹介いたします。

せるの?」

「そりゃ決まっているわよ。言い出しっべの、山下さん。」

さあ、(バン!)妻がチャレンジをしたことで、夫勝造さんが変わったんです。(バン!)

女房が?冗談じゃない。俺は許さん!なんて妻の立候補にも嫌な顔をしていた勝造さんですが、いざ活動が始まって、茂子さんが雨の日も風の日も、ビールケースの上に立って辻立ちをして、自分たちの思いをひとりでも地域の人たちにわかってもらおうと演説を始める。そういう妻の必死の姿を見て、ああ、あいつも何かがんばっているじゃないか。じゃあ、あいつが忙しくてできなくなった家事労働を、俺はどうせ定年で暇なんだから、俺がやってみるかなと、家事労働に関わりを持って、だんだんだんだん楽しさがわかって参りまして、(タタン!) 山下勝造さんは一生懸命家事労働の土俵に上がって取り組んでいるという、物語になるわけです。(タタン!)

**男性のみなさん、とりあえずやってみましょう!!**

男だからこの役割、女だからこの役割なんて、あまりにも性を狭くとらえて役割を決め付けてしまうと、女も男も大変だと思うんです。一緒に責任を負ったほうがいいじゃないですか。山下さんちはやっとな勝造さんが目を向けて取り組むようになりまして、茂子さんも自分の活動に身を入れることができるようになっていくわけです。だいたい女でも男でも自分の身の回りのことは、誰かさんを当てにしなくても自分でできるって、そういう力をつけるのは当たり前のことじゃないかと思うんですが。

いやあ、俺苦手だからって、そうおっしゃる方も男の人多いかもしれませんけど、それは慣れてないからかもしれないんです。女だから生まれながらにして家事労働に優れた力を持ってると言えませんが、私みたいに、女に生まれましたけど口だけ達者で、もう手は全く不器用な女もいるんです。それでも主婦業長くやれば、それなりにテキパキと今はできるわけです。男の人だって、俺はできねえよ、なんて言わないで、慣れば奥さん以上にうまくできる能力を持っているかもしれない。とりあえずやってみるってことも大事だと思うんです。

**女性のみなさん、身に覚えはありませんか?**

私は男の人をやっつけるためにこんな話をわざわざこしらえてるわけじゃないんです。それどころか、私たち女もまだだだだ々と自分のことを含めて、そういうことを思いながら話をするわけです。

かつてある県の連合婦人会の会長さんの話がおもしろいんです。息子がね、やっとな結婚してくれて、親として責任を果たしたようでホッとした。で、この間、息子の新居へ遊びに行ったら、たまたまそのときに息子ったら洗濯物を干していた。私はその息子の姿を見て、あら、新婚の今からこんなことさせられて、かわいそうに。ひとこと言っただけで、なんて思ったけど、そうじゃない。これは息子夫婦が決める役割分担。母親だからって口出すことじゃないと、ぐっと我慢して何にも言わずにうちへ帰ったんだけど、思い出したんげに悔しくて、悔しくて…。

それから少しして、3年前に結婚した娘のところへ立ち寄ったら、たまたまそのときに娘の連れ合いが洗濯物を干していた。私はその姿を見たら急にうれしくなっちゃった。あら、娘は幸せねえ。優しい旦那さんでほんとに良かったわーなんて、我がことのようにうれしい気持ちで帰ってきた。

でもよくよく考えてみると、男が洗濯物を干すということはおんなじこと。理屈ではちゃんとわかるけれども、どうしても感情的に、婿さんがやるとうれしんだけど、息子がやると腹が立つと、本音を教えてくださったんです。



まだまだ私たち女性の中にもそういう矛盾をやっばり抱えてるんだと思うんです。共同参画?男がわかんないからだめヨーなんて、男の人に責任を押し付けてばかりいないで、私たち女性ももうちょっと謙虚になって、男の人と一緒に知恵を出しながら、生き生きできる役割分担を決めて考えていく、そういうことにしていきたいな、そんなふうに思ったりするわけです。(タタン!)

今日はそんなわけで、山下さんちの物語、男女共同参画社会抜き読みの一席、(バン!)このへんで失礼をいたします。

ここに載せきれなかったお話は、『男女共同参画講演会収録録』でご覧いただけます。ご希望の方に差しあげますので、是非ご一報ください。

〒068-8686 岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号  
岩見沢市企画財政部住民自治対策室

<TEL> 0126-23-4111 <FAX> 0126-23-9977  
<E-mail> danjo@i-hamanasu.jp

■NPOを立ち上げたきっかけと、どんな活動をしているのか教えてください。

岩見沢は市の花がバラなのに、まちなバラがないという話から、バラを絡めたまちづくりを考えていったのが始まりです。そこから団体をつくらうという話が進んで、去年10月にNPOの認可が下り、正式にNPOとして動き出しました。今のところ、そんなに見える活動はしていませんが、冬の間にいろいろ計画を練っている段階です。まずやりたいのが、駅前メタセコイヤの周りに市民でバラ園をつくること。岩見沢の駅に降り立ったら、まちな花はバラだっただけでわかる、当然香りもするので、五感で感じる岩見沢のまちづくりを市民で手がけたいと思っています。

■まちづくりについて思うことは。

だいたいみんな、流れに乗っていきと思うんです。で、その流れを誰がつくるかが問題で、果たしてあと10年20年が経てるかどうかかわからない人たちが、その流れをずっと決めていって良いのかと疑問を感じます。女の人の発想や考えを、どんどん反映していって欲しいし、あと3、40年経ったら、今の子どもたちが完全にまちを仕切っていくことになるので、その子どもたちが進んでまちづくりに関わって欲しいと思います。間違いなく女の人のほうが長生きすると思うし、その人たちの意見は通らないで、長生きしない人たちの意見で形がつけられていくのはおかしな気がします。



NPO運営者兼のまち岩見沢代表理事、事務所兼店舗カフェローズテラビー(4西4)を拠点に活動、40歳。

■貴さんと男の子2人の4人家族だそうですね。仲が良くて自慢の家族だとお聞きしましたが。

自分がやっていることは何でも家族に話しています。あと青年会議所をやっていた関係で、ドカ雪まつりや餅まつりなどお祭りがらみのイベントが相当あり、必ずそういうお祭には準備段階から携わっていますが、自分だけがやっていると家族とずっと離れてしまうので、家族も一緒に行ってみるまで手伝うようにしています。僕はそういう所に家族を連れて行くのが大好きなんです。

■家庭の中の役割分担についてはどうお考えですか。

子どもに、「男だからこれはやらなくていい」というふうには言ったことはありませんし、当然ばくも料理をつくり、昔ひとり暮らししていたこともあって、今でもフライパンはぼくのフライパンを使っているし、マイ包丁もあります。そういうのを見ているから、うちの子どもたちも料理をやりたいがります。

多方面で活躍され、忙しく動き回っている西方さん。その原動力は、岩見沢のまちが大好きだということ、そして何よりも家族への愛情だと感じました。こういう方がいらっしゃれば、岩見沢も変わっていくという印象を受けました。

代表理事  
西方洋昭さん



岩見沢地区消防事務組合  
鎌田有三さん

■新婚さんだということですが、家庭の中の役割分担などを聞かせて下さい。

僕の仕事は24時間勤務なので、昼間家にいる日もあるわけなんです。今、妻も働いていますので、家の掃除とかゴミ捨てをしたりとか、その程度のことはします。でも料理が得意であまりできないものから、食器の後片づけや洗ったりとかは全部僕がやったりとか...。そうですね役割分担と言っても僕のやっていることはそんなことぐらいです。

■貴さんは保育士さんとお聞きしておりますが。

そうです。市内の保育所に勤めています。高校時代の同級生でした。それで部活動も同じバスケットボール部で、私がキャプテンで妻がマネージャーだったんですよ。よくある話です。(笑)二人とも子どもは欲しいねと言っているのですが、もう少し新婚の二人だけの生活もしたいなと思ってます。妻ももう少しこのまま仕事を続けたいと言っています。

■119番通報がないときは何をしていますのですか。

よく聞かれます。僕も入った頃には正直火事さえなければ楽なのかなという思いがあったのですが、人員減少もあって事務の仕事が多くなり、昼間もパソコンに向かって仕事をしている事が多いです。それから僕たちの仕事は火事が出て出動するだけではなく、例えば、岩見沢は豪雪地帯ですので消火栓がすぐ雪に埋もれてしまい、いざというときに使えませんので、冬は毎日のように除雪もします。それから火事を消すのも大事ですが、火事を出さない環境を作っていく事も大事な仕事ですので、予防広報もしています。

■印象に残っている火災はありますか。

やはり駅舎の火災が印象に残っています。でもどの現場に行っても被災された方の目、顔とかが印象に残りますね。今はだいぶ慣れましたが、入った当初はご飯も食べられませんでした。火災以外の救助現場でも、残念ながら助けられなかった人もいますが、そういうときには夜眠れない事もよくありました。

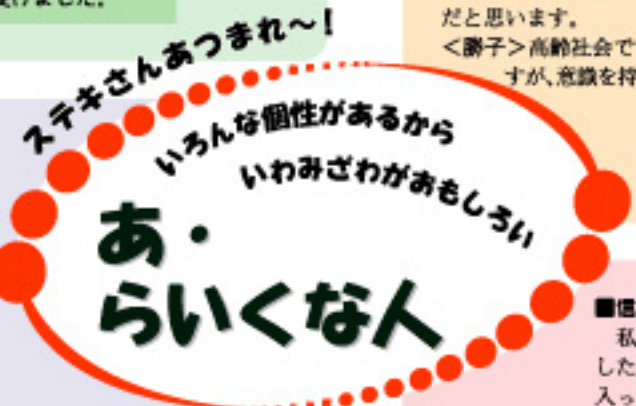
■いつごろから消防士になりたいと思ったのですか。

私が保育園の頃にたまたま火災現場に出くわしまして、消防士さんの活躍する姿が目に見え付きました。で、カッコいいとずっと思っていて中学、高校ときました。子どもの時の印象がとても強かったです。

子どもの頃からの夢を実現した鎌田さんは、今が公私共にもっとも充実した時のようです。あるときは消防士、あるときは救急隊員としてまちを守るとともに、これからはよき夫としての活躍も期待しています。



岩見沢消防署第一東出張所勤務、H11採用、H16士長に昇格、消防職員として6年目、24歳、昨年結婚し保育士である妻と二人暮らし。趣味はドライブ。



岩見沢市立総合病院  
長山 誠さん  
長山 勝子さん

■家庭の中の役割分担は？

<誠>自分のほうが料理はうまいですよ。と思ってるだけなんですけど。(笑)子どもが小さいときは、帰るとお腹すかせてますから、早く帰ったほうが必然的に食事をつくって食べさせるという習慣ができたんですね。

<勝子>彼の作る料理は訳のわからないものだけけど結構おいしいんです。(笑)冷蔵庫の余り物とかを利用するのが上手なんです。同じ職場なので事情もよくわかってきてますし、私が遅いときには家のこともちゃんとしてくれています。すごく感謝しています。

■岩見沢のまちづくりについて思うことは

<誠>あくまでも自分個人の意見なんですけど、岩見沢の人は市の行政に対して依存的なところがあって、自分でできることさえ市でしてくれないと言ったりします。自分でできることは自分でするという考えになれないのかなと思います。自分のことを考えるとあまり言えないかもしれないけど、出したゴミはすべて持って行って欲しいですからね。(笑)でも要求ばかりが多すぎて、自分のすべきことを忘れてるんじゃないでしょうか。市の財政のことを考えても、「住民自治」の精神を一人ひとりが考え直す時期なのだと思います。

<勝子>高齢社会ですから、長年の生活習慣をなにかひとつでも変えるというのは大変なことだと思いますが、意識を持って変わるように努力すること、気づきを持つことが必要なことなのかも知れませんね。

休日も研修会などで休めない日も多い勝子さんですが、「やっぱりこの仕事が好きなんです。」と明るく笑います。でも二人とも定年後の自由な生活を夢見て頑張っているそうです。



長山勝子 53歳 市立総合病院看護科長兼5階東病棟部長。趣味は夫と二人でゴルフ。



長山 誠 54歳 市立総合病院人工透析科技師長。高2、中3、二人の娘を持つ。楽しみはたまにするパチンコ。

■信金に入社した動機は。

私が就職した頃は、バブルが終わって、ちょうど就職難に入りかけたときでした。会社説明会で、大卒の女性が過去にはいたが続けている人がいないので、入って活躍してもらいたいという話でした。先輩がいないのでどうなのかなという不安はありましたが、逆に可能性もいろいろあると感じました。

■空知信用金庫は女性の職場を拡大し、管理職への登用を促進する取り組みが評価され、「均等推進企業表彰北海道労働局長賞優良賞」を受賞されたそうですが、時代の流れをいち早く取り入れてこられたんですね。

私が入ったときから、女性だからといって分けて仕事を与えられてきたわけではありませんし、いろいろチャンスも与えられました。研修に行くと女性が一人だったということがあります。それは入庫何年目かになると、男性なら普通に受けるような研修だったので、分け隔てのない待遇をして頂いたという面では上司に恵まれていたと思います。今の部の上司も、女性だからといった差別は全然ありません。

■そういう機会を男女同等に与えられても、女性自身の中に男性と区別する気持ちがあることが多いのではないのでしょうか。

多分女性の中にも、女性だからこんなに働かたくないという気持ちがある人もいるかもしれません。でも、働き方の違いなので、そういう人は自分のできることの中でやっていけば良いと思います。業務として皆に同じレベルのものを求めると、出来る人、出来ない人、やりたい人、やりたくない人、様々でしょうから。

■将来は支店長を目指したいとか、何か目標をお持ちですか。

支店長になるとかならないとかは別にしても、なっても困らないだけの教育を受けたり、経験をしたりすることは大切だと思います。でも今はいろんな働き方が認められている時代ですから、支店長を目指して頑張る働き方、ひとつの事のスペシャリストを目指す働き方、そういういろいろな選択の幅があってもいいのではないのでしょうか。

あくまでも謙虚に話す河森さんですが、女性の職場を確固たるものにしたという面では、人材と時代がマッチしたということが大きかったと思います。女性のバイオニアとしてこれからも頑張りたいと思います。



空知信用金庫 営業推進部  
河森里香さん

# いわみざわ 男女共同参画プラン 推進市民会議

since2004

- 「いわみざわ男女共同参画プラン」は、平成11年に制定された「男女共同参画社会基本法」という法律の第3条から第7条までの5つの基本目標を柱に平成14年に策定されました。
- しかしそれをどう推進していくかという取組み内容については具体的に示されていないため、このプランに肉付けをしていくが必要になってきました。
- その具体的な推進方法については最終的に行政が作らなければならないものですが、行政が一方向的に決めるのではなく、市民の皆さんの意見を取り入れた上で、形にしていけることが理想と考えました。
- そこでこの基本計画を推進していくための行動計画(アクションプラン)を策定し、具体的な取組みを目的として、「いわみざわ男女共同参画プラン推進市民会議」が活動を開始しました。
- 約200名の会員のうち62名が4つのグループに分かれ、それぞれのグループテーマにそった話し合いを重ねたり、学習会を行ったりしています。
- このコーナーでは、これまでの話し合いの内容や、研修会などの様子についてご報告します。

## いわみざわ男女共同参画プランの推進イメージ



これまでのグループ会議で出てきた意見や感想のほんの一部です。生活の中から感じたことを自由に話し合い、今後その解決へ向けた課題の検討に進んでゆく予定です。

お互いに相手がいなければ何にもできない夫婦にならないために、自分のことは自分でできるように、子どものときから意識して育てていくべきでは、



女性が子育てしながら仕事を続けることは、残念ながらまだ社会的に認められていない。



イキイキとしたまちづくりには健康な高齢者によるボランティアの力が必要。



世代、性別によって、考え方にはギャップがあるのは当然。お互いの良さを認め合う社会をつくっていくことが大事。



子育て支援が問題になっているが、子どもだけのことを考えるのではなく、子どもを産んだあとの女性のフォローも考えなければ解決しないと思う。



若い人たちは男も女もこだわりなく役割をするようになってきている。若い世代からよい方向に向かっていくと感じた。

介護や子育て支援のサービスについて、住民はもっと知る努力を、行政はもっと住民全体に届く努力が必要。

家庭では女性の役割が多いが、地域活動となるとどうだろう。家庭の中から少しずつ役割分担していくことによって地域も変わるのでは。

男女共同参画の根拠は、相手への思いやりと助け合うことだと思う。



男女共同参画とは男性に求めるだけではなく、女性自身も変わらなければいけないと思う。



短期間で変わるような性質のものではない。今はまず多くの意見・提言を集めていくことが大事なこと。

## 会議開催状況 (2005.2現在)

【グループ①】(メンバー14名)  
グループリーダー会議……2回  
グループ会議……4回

【グループ②】(メンバー16名)  
グループリーダー会議……2回  
グループ会議……5回

【合同リーダー会議】  
7.15 第1回リーダー会議  
10.7 第2回リーダー会議

【グループ③】(メンバー14名)  
グループリーダー会議……1回  
グループ会議……5回

【グループ④】(メンバー18名)  
グループリーダー会議……1回  
グループ会議……4回



「働く女性の権利と労働基準法  
(女性関連)」  
平成16年11月9日(火) 午後6時00分  
講師：岩見沢労働基準監督署次長  
鈴村勲次郎さん

## 合同グループ会議 (学習会)



「介護保険基礎知識について」  
平成17年1月21日(金)  
午後6時00分  
講師：市民会議議長 東海林公子さん  
(岩見沢市介護認定審査会委員)



# 参加報告レポート

集い、語り、ともに拓こう! 新たな関係

## 日本女性会議 2004 まつやま

いわみざわ男女共同参画プラン  
推進市民会議 議長 東海林公子

第21回日本女性会議は、「国際婦人年から30年」、「女子差別撤廃条約批准から20年」、「北京女性会議から10年」という節目の年に、小説「坊ちゃん」の舞台、愛媛県松山市で平成16年10月22日、23日の2日間に亘って開催されました。台風23号の四国上陸で危ぶまれた今大会でしたが、好天に恵まれ全国各地から2,600人が参集し、メイン会場となった愛媛県民文化会館には市民ボランティアの万々などによって作られた300枚のキルトが展示され、地元の歓迎の大きさを感じた大きな盛り上がり大会となりました。

### 1日目

#### 基調報告

内閣府男女共同参画局長 名取はにわさん  
「北京女性会議から10年」  
～行動綱領はどのように  
活かされてきたか～



'95年、日本から約5千人の女性たちが北京に行き、女性問題は世界共通であることを確認しました。その後女性たちの熱気が'99年、我が国に男女共同参画社会基本法をもたらしたのです。基本法成立から5年、法律・制度は整備されつつありますが、社会の変化は緩やかで、女性のチャレンジ支援策など男女共同参画社会の形成に向けた施策を推進すると共に、女性のエンパワーメントの大切さを訴えていました。



#### シンポジウム

「気づこう・築こう、わいわいシンポ」  
テーマ：男女共同参画社会の今、そしてこれから

- コーディネーター 樋口 恵子さん(評論家)
- シンポジスト 岩男寿美子さん(慶應義塾大学名誉教授)
- 瀬地山 角さん(東京大学教養学部教授)
- 竹信三恵子さん(朝日新聞経済部記者)
- 市民100名(高校生・専門学校生・大学生)

北京会議で採択された行動綱領に沿って、「男女雇用機会均等法」「労働基準法」「育児・介護休業法」の改正など法整備が進みました。しかし現実はどうなっているか、これからの10年で何をすべきかという課題に、瀬地山さんは「育児休暇など享受できる権利を活用すること」、竹信さんは「女性が経済力をつけ自分の権利を守るために自衛する」、岩男さんは「変だと感じたことはその意味を考えて」と語り、最後に樋口さんが「現在はシステムの交換途上を歩いている。人間の幸福を考える文化を次の世代に伝えよう」と締めくくりました。



#### 交流会

道後温泉 大和屋本店

#### アトラクション～舞臺子

本格的な能舞臺「千寿殿」



1日目の夜、2会場に分かれて交流会がもたれました。私の出席した道後温泉の老舗旅館、大和屋本店では、能のさわりの部分を面や装束を着けずに舞う「舞臺子」が、旅館内に設けられた本格的な能舞臺「千寿殿」で幻想的なかがり火のもとで演じられました。交流会では全国各地の人たちが交流をもてるように配慮されており、日ごろできない情報交換などで楽しい時間を過ごしました。

### 2日目

#### 分科会

第14分科会  
「高齢社会と女性」



19の分科会のうち私の選択した第14分科会は「高齢社会と女性」をテーマにパネルディスカッションが行われました。介護する側もされる側も女性が多い現状では高齢社会の問題は女性の問題でもあります。4人のパネリストの方々は、最新の取り組みや今後の方向性について活発な議論を交わしていました。



#### 記念講演

「女性と平和」  
～わたしにできること～  
講師 渡辺えり子さん  
(演出家・劇作家・女優)

最後のイベント「記念講演」では、「女性と平和」～わたしにできること～と題して、映画やテレビでおなじみの渡辺えりさんが登場しました。現代社会を平和の観点からとらえ、改めて平和について考えることに示唆したものでしたが、パワフルでユーモアあふれる情熱的な語りで、彼女の素晴らしいお人柄に触れることができたような気がしました。

ご意見・ご感想をお待ちしています。

#### 編集後記

男女共同参画情報誌としてスタートしてから、早いもので3年目となりました。毎年いろいろな人との出会いがあり、大きなパワーを編集委員の私たち自身が一番頂いているような気がします。これからも一人ひとりが「自分らしく」生きていくきっかけ作りをめざして編集していきたいと思っています。この情報誌へのご意見やご感想をお寄せ下さい、お待ちしております。

#### ア・ライク

VOL.3 2005年3月発行  
発行 岩見沢市(企画財政部住民自治対策室)  
〒068-8686 岩見沢市城が丘1丁目1番1号  
☎0126-23-4111 E-mail: danjo@i-hamanasu.jp  
企画・編集 岩見沢市男女共同参画情報誌編集委員会  
(女性のネットワークいわみざわ  
いわみざわ男女共同参画プラン推進市民会議)  
印刷 (株)組合印刷